記者発表資料

平成２２年１月１５日
山形河川国道事務所

国道１１２号西川町間沢（まざわ）交差点において「ためない排雪」を試行します

～安全性向上とコスト縮減の両立について検証します～

一般に排雪（運搬排雪）は、施工費が通常の除雪に比べ時間当り２～３倍程度割高で交通規制を伴うことなどから、出来るだけ雪をためて作業して回数を減らすことが経済的とされています。しかし、たまった雪による車道や歩道幅の減少、交差点内の見通し悪化等により安全性の低下が懸念されます。また、雪がたまり高く硬くなることにより掻き出すのに手間取り、作業や交通規制が長時間となるなどの課題を抱えています。

そこで、これまでの発想を変えて雪をこまめに取り除く「ためない排雪」を１１２号西川町間沢交差点で試行します。

これにより路肩の雪を少量にとどめ、道路幅員と交差点内の見通しを確保し安全性の向上を図ります。また、雪が高く硬くなる前に処理することにより作業効率が上がり除雪機械等の作業時間が短縮され、交通規制も最小限で済むことが期待されます。

今回の試行により、交差点内の安全性向上とトータル的なコスト縮減の両立が可能かを検証します。

○実施時期　除雪期間（～３月下旬まで）

○実施区間　国道112号西川町間沢交差点（下り側 約２００ｍ間）

○実施内容　別紙による

〈発表記者会：山形県政記者クラブ〉

〈問い合わせ先〉
国土交通省　東北地方整備局　山形河川国道事務所
道路担当副所長　高橋（たかはし）　敏彦（としひこ）（電話023-688-8421　内線205）
寒河江国道維持出張所
技術係長　一ノ坪（いちのつぼ）　忍（しのぶ）（電話0237-84-3191）

国土交通省東北地方整備局

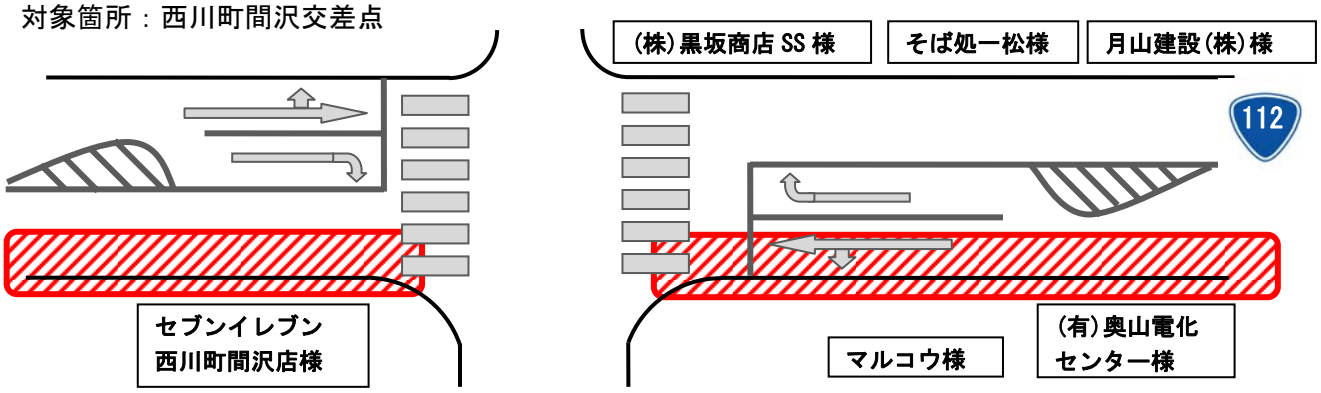
別　紙

国道 112 号間沢交差点で「ためない排雪」を試行します

「ためない排雪」とは・・・

道路脇の雪が沢山たまらないようこまめに取り除く作業です

対象箇所：西川町間沢交差点



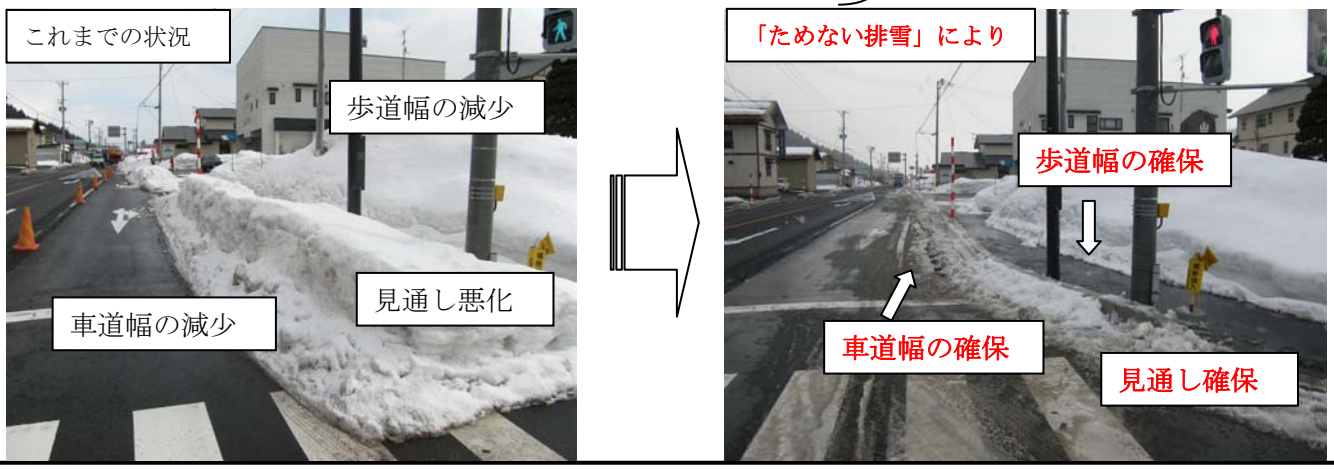
効果・ねらい（安全性の向上とコスト縮減）

〇車道が広く確保され、走行しやすくなります
〇雪山による壁がなくなり、見通しが良くなります
〇歩道が広く確保され、歩きやすくなります

冬期間も安全な交差点に！

〇 排雪１回の雪の量が少なくなり、交通規制時間（作業時間）が短縮されます
〇このため、排雪１回の費用を抑えることができます
〇排雪回数は増えますが作業効率は上がります

仕事のやり方を見直して
コスト縮減を目指します！



この取り組みについては、後日アンケートにより皆様のご意見等をお伺いする予定です。
ご協力よろしくお願いします。

問い合わせ先：国土交通省　東北地方整備局　山形河川国道事務所
寒河江国道維持出張所
電話　０２３７－８４－３１９１

（参考資料）

除雪作業内容

(1)パトロール

通常のパトロールと合わせ、路面の状況，吹雪の状況，側方余裕，交通流，故障車，放置車等の点検及び雪崩発生予想箇所の把握、雪庇状況の把握を行い、降雪状況，作業の推移等を適格に把握し、緊密な連絡のもとに適切な作業を進める。



パトロール状況

(2)新雪除雪

基準降雪量に達した時又はそれ以下であっても、降雪状況，気象状況などから交通に支障を与えると予想される場合には出動し、路面に積雪を生じさせたり、通行車輌によって圧雪されるのを防ぐために行うものであり、作業は特にタイミングを逸しないように留意する。

(3)路面整正

走行車輌の安全を図るため、路面に生じた圧雪、不陸等を除去する作業である。

(4)拡幅除雪

新雪除雪及び路面整正によってかきよせられた雪により、雪堤（雪だまり）が形成され次第に幅員が狭くなり、所要の幅員の確保が困難となるため、これを避けるための作業である。



拡幅除雪状況

(5)運搬排雪

路側の雪堤が高くなり、拡幅の余地がなく必要幅員の確保が困難になった場合、次の降雪に備えて運搬投棄する作業である。



運搬排雪状況



運搬排雪状況

(6)凍結抑制剤散布

局部的な凍結、圧雪箇所(橋梁、交差点等)に散布し、路上水分の凍結防止、あるいは圧雪路面でのすべり摩擦を大きくするため実施するもので、一般通行車両の危険防止をはかるものである。外部の気象情報、管内観測所の気温、路面温度等を参照し無駄なくかつ早めの対応を行う。


凍結抑制剤散布

(7)雪崩雪庇処理

過去の雪崩、雪塊落下発生状況、積雪、雪庇発生等から危険個所を設定し、あるいはパトロール、気象情報などから状況に応じ人工的に処理するもので、雪が比較的柔らかいうちに早目に実施し、危険除去につとめる。また、トンネル等のつららについても除去を行う。


雪庇処理状況

(8)歩道除雪

通勤・通学路、バス停周辺等を中心に主に機械除雪により歩行者交通の確保を図る。


歩道除雪状況


歩道除雪状況